

Title	分析書誌学の資料組織化への応用
Author(s)	若松, 昭子
Citation	聖学院大学論叢, 21(1): 47-60
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=953
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

分析書誌学の資料組織化への応用

— セントブライド図書館におけるペディーの実践を中心に —

若松 昭子

An Application of Analytical Bibliography to the Organization of Library Resources

— Focus on Peddie's Practices at the St Bide Library —

Akiko WAKAMATSU

This study examines how the results of study of analytical bibliography were applied to the cataloging and classification of resources at the St Bride Library. As a result, the following matters were inspected. On the bases of the Dewey Decimal system and the Classification of the Gloria Club Library, which included the special subject of study of book, Robert A. Peddie edited the St Bride Library Classification, applying the Proctor Classification, which organized Incunabula from the point of view of the history of printing. This adopted classification is still effectively used to organize various kinds of materials of the St Bride Library.

Key words: 分析書誌学, 印刷史, セントブライド図書館分類, グロリアクラブ図書館分類, プロクター分類

目次

はじめに	3. ニューヨーク・グロリアクラブ図書館分類法
1. 書物史研究と書誌学者ペディー	4. ロンドン・セントブライド図書館分類法
2. 印刷史とプロクター分類法	おわりに

~~~~~

## はじめに

ゲーテンベルクが印刷術を開始した15世紀中頃から、印刷術がヨーロッパ各地に広がりを見せる15世紀末までの約50年間に印刷された書物は、印刷文化の草創期という意味をこめて、「インクナブラ (incunabula: インキュナブラ, インキュナビュラ)」と呼ばれている。インクナブラの初期のものは、人々に親しまれてきた従来の写本様式を受け継いで作られた。そのため、多くのインク

ナブラには、印刷者、印刷地、印刷年月などの書物の出所を示す表記がない。いつ、どこで、誰によって印刷されたものか不明であれば、正確な書誌を作成することは困難であるし、印刷術が伝播していった過程も明らかにはならない。

分析書誌学は、19世紀後半のヨーロッパにおいて、正確な書誌を作成するために、書物の物理的な側面、すなわち紙、活字、インク、装丁などを研究することによって、書物の印刷関連事項を同定するところから始まった。そして、19世紀末から20世紀初頭にかけて、多くのインクナブラの印刷関連事項が明らかにされ、それに伴って15世紀後半ヨーロッパにおける印刷の歴史が輪郭を現したのである。

しかし、これらの業績は一人ひとりの研究者によって個別に積み上げられたものではない。すなわち、分析書誌学という新しい学問の誕生と発展の背景には、研究者、書籍商、古書業者、図書館員といった異なる分野の人々の知識・情報の交換と共有、またそれぞれの研究成果の積み重ねがあった<sup>1)</sup>。

ロンドンの印刷業者ブレイズ (William Blades, 1824-90) や、オランダのハーグ王立図書館長ホルトロップ (Johannes W. Holtlop, 1806-1870) は、インクナブラに用いられた様々な活字体の変化に着目し、それらを手がかりとして印刷者や印刷年代等を同定することを始めた。彼らに積極的な助言を行い、書物の物理面での研究を体系化し促進したのはケンブリッジ大学図書館のブラッドショー (Henry Bradshaw, 1831-86) であった。彼は、現存するインクナブラのすべてをこうした科学的な方法で調査し、その印刷地、印刷者、印刷年代を明らかにし、それによってこれまで不明であった印刷術の伝播と普及のプロセスを解明しようとしたのである。

大英博物館図書館員のプロクター (Robert G. C. Proctor, 1868-1903) は、ブラッドショーに賛同しこの壮大な計画を実現した。彼は、大英博物館とオックスフォード大学ボドレイ図書館に所蔵されていたすべてのインクナブラを対象に、それぞれの活字形態を丹念に調査分析し、それらの印刷者、印刷地、印刷年代を判別した。この結果をもとに、大英博物館とボドレイ図書館の所蔵するインクナブラは、印刷国、印刷地、印刷者、印刷年月順に再編成されていった。こうしてヨーロッパにおける印刷術の伝播過程が地理的、歴史的に明らかにされたのである<sup>2)</sup>。

ブレイズやホルトロップに始まり、ブラッドショーからプロクターへと継承され体系化されていった分析書誌学は、次世代の人々にも受け継がれさらに発展を遂げてゆく。例えば、プロクターの死後、大英博物館のインクナブラ目録編纂を受け継いだポラード (Alfred W. Pollard, 1859-1944) は、グレッグ (Walter W. Greg, 1875-1959)、マッケロー (Ronald B. McKerrow, 1872-1940) らとともに、英国書誌学会 (London Bibliographical Society) の中心として活躍し、分析書誌学を「新書誌学」と呼ばれる学問分野として確立した。彼らは、研究の対象をインクナブラから近現代の書物へと拡大し、その影響は各国に、また文学、歴史、芸術等の分野にも広がった。

一方、プロクター等の研究成果は図書館現場にも少なからぬ影響を与えた。例えば、セントブラ

イド図書館 (London, St Bride Library) のペディー (Robert A. Peddie, 1870-1951) は、プロクターの印刷史的分類法を採り入れて独自の資料組織法を考案し、自館の図書館システムに応用していった。アメリカでは、バトラー (Pierce Butler, 1884-1953) がプロクター索引とその分類手法を基に、ニューベリー図書館 (Chicago, Newberry Library) のインクナブラ・コレクションを構築し、印刷術の伝播と普及の実際を具現化してみせた<sup>3)</sup>。

本稿では、プロクターの印刷史的分類法を図書館システムの基礎におき、独自の資料組織法を考案したペディーの実践を通して、19世紀後半に急速に発展を遂げた分析書誌学の研究成果が、20世紀初頭の図書館現場にどのように採り入れられ応用されていたのかを辿り、当該学問分野における理論と実践の融合の実際を検証する。

## 1. 書物史研究と書誌学者ペディー

ロンドンのフリート街にあるセントブライド図書館は、1895年、セントブライド教区の人々の寄付によって設立された印刷学校の附属図書館として開館された。図書館の蔵書は、イギリス最初の印刷業者キャクストン本の出版年代を活字研究によって明らかにしたブレイズの私的コレクションが中心となった。ペディーは、1904年から1916年にかけて、セントブライド図書館の館長として、館の発展と充実に貢献した一人である。また彼は、図書館長としてばかりではなく、インクナブラ研究の書誌学者としても大きな成果を残している。彼は、セントブライド図書館長を退任後、古書店グラフトン社に移り、1927年には *Printing, a short history of art.* (London, Grafton, 1927) を著した。これは、書物社会史という歴史学分野における新しい研究手法を実践したフェーブルとマルタンの代表的著作『書物の出現』においても参考文献として用いられた<sup>4)</sup>。

ペディーが館長在任中の20世紀初頭は、インクナブラを大量に所蔵する図書館、例えば大英博物館、オックスフォード大学ボドレイ図書館、ケンブリッジ大学図書館等の図書館員や、書物研究に関心を持つ印刷業者や書籍商などの交流が、ロンドンを中心として活発に行われていた時期である。セントブライド図書館も、インクナブラ目録の編纂、展示会・講演会の企画開催、研究大会の会場提供などを積極的に行うことによって、分析書誌学分野における研究者交流の中心的存在の一つとして機能していた<sup>5)</sup>。プロクターも、インクナブラの研究を通し、セントブライド図書館と緊密な関わりを持っていた。当時、セントブライド図書館のラング (Frederick W. T. Lange, 1866-1927) は、内部機能の充実を図るために蔵書拡充やコレクション整備を行い、順次、その目録を出版していた。それらの目録は、関係機関へ送られていったようである。同図書館には現在も、1900年にプロクターが書いたラング宛てのはがきが残されている。プロクターのはがきには、目録送付に対するラングへの感謝の意と同時に、上梓したばかりの自分の小冊子をセントブライド図書館に送る旨が記されている。

ペディーは、特にプロクターの研究に関心を持ち、自らもそれを基礎として研究を発展させようとしていたと考えられる。ペディーは、1913年に *Fifteenth-century books* (New York, Burt Franklin, 1913) と題する、インクナブラ書誌の解題を出版した。彼はこの中で、プロクターの索引を「インクナブラの大規模コレクションを体系的、そして科学的方法で編成した最初のものである」<sup>6)</sup> と紹介した。プロクターとペディーとの交友を示す直接的な証拠は特に見当たらない。しかし、ペディーがプロクター分類法を自分の研究や実践に応用しようとしていたことを裏付けるようないくつかの例がある。

その一つは、ペディーが1904年に出版したセントブライド図書館のインクナブラ目録 *List of early printed books* (London, St. Bride Foundation Institute, 1904) である。これは、ペディーがセントブライド図書館の複数のコレクションから100点のインクナブラを選択し出版したものであった。目録には、プロクター分類法が採用されている。ペディーは、目録の冒頭で次のように述べている。

このコレクションは、研究者が印刷史の詳細な部分を研究するには満足のいく量とは言えない。しかし、印刷術の主要な流れは十分に示しているし、代表的な印刷所の多くはここに提示されている<sup>7)</sup>。

大英博物館のインクナブラ索引と較べれば、100点という数の制約があるこの目録は、ペディーの言葉どおり印刷術の伝播過程を詳細に示すものには至っていない。しかしながら、この目録からは、プロクター分類法に則って、自館のインクナブラ・コレクションを印刷史の観点から再編成しようとしたペディーの意図を見て取ることができる。これは、ペディーが、プロクター分類法を印刷史の表現方法として評価していることを示す良い例であろう。

また別の例は、1916年に出版されたセントブライド図書館分類法（以下、「S B L C」と略す）である。この時期、セントブライド図書館は、設立以来増加の一途を辿ってきた多種多様な印刷関係の資料を整理し体系化することの必要性に迫られていた。ペディーは、これらの資料を有効に整理活用するために、セントブライド図書館独自の分類法を考案した。彼は、S B L Cを、ニューヨークの書物研究者団体であるグロリアクラブの図書館分類法を基礎として作った<sup>8)</sup>。グロリアクラブの分類法は、デューイ (Mervil Dewey, 1851-1931) の十進分類法 (D D C) を参考にしたものであったため、構成上の展開性があり、増加する新資料に対しても適応能力が高かったためである。しかし、ペディーは、セントブライド図書館の資料分類に、彼独自の工夫を盛り込んだ。それは、インクナブラだけではなく、図書館の全資料を印刷史という観点から組織化するという工夫であった。すなわち、S B L Cには、印刷史を表現可能としたプロクター分類法の手法が採用されたのである。S B L Cの構造については、第4章において詳細に検討する。

## 2. 印刷史とプロクター分類法

プロクターの活字研究の大きな成果の一つは、1898年から99年にかけて出版された大英博物館所蔵のインクナブラの索引 *An index to the early printed books in the British Museum; from the invention of printing to the year 1500 with notes of those in the Bodleian Library* (London, Kegan Paul, 1898-99) である。(以下、「プロクター索引」と呼ぶ。) プロクターは、この索引のなかで、大英博物館所蔵の約8,000点のインクナブラを印刷開始の早い国順にわけ、次に印刷開始の早い都市順、更に印刷開始の早い印刷所(者)順、またその中を作品の刊行年順に分けて配列した。例えば、索引には、15世紀において、ロシアを除くヨーロッパで印刷が行われた国の13ヶ国が、印刷開始の早い国順に示されている。それらの配列を辿ると、1454年にドイツで発明された印刷術が、1465年にはイタリアへ、1468年にはスイスへ、1470年にはフランスへと伝わり、以下順次、オランダ、ベルギー、オーストリア・ハンガリー、スペイン、イギリス、デンマーク、スウェーデン、ポルトガル、モンテネグロの諸国に広がっているのが分かる<sup>9)</sup>。図1は、印刷術の伝播過程を国レベルで図示したもの、また表1は、その年代順配列である。

それぞれの国の中を見ると、印刷開始の早い都市の順に配列がなされており、各国内における印刷術の伝播経路がわかる仕組みになっている。例えば、印刷開始の最も早いドイツには、15世紀において印刷所が存在していた51の都市が示されている。プロクターは、それらの都市を印刷開始の早い順に配列することによって、ドイツ国内における印刷術の普及過程を示したのである。すなわち、索引からは、グーテンベルクによってマインツで発明されたといわれる印刷術が、1461年にストラスブルク(現在はフランスに属する)とバンベルクへ、1466年にはケルンへ、1467年にはエル

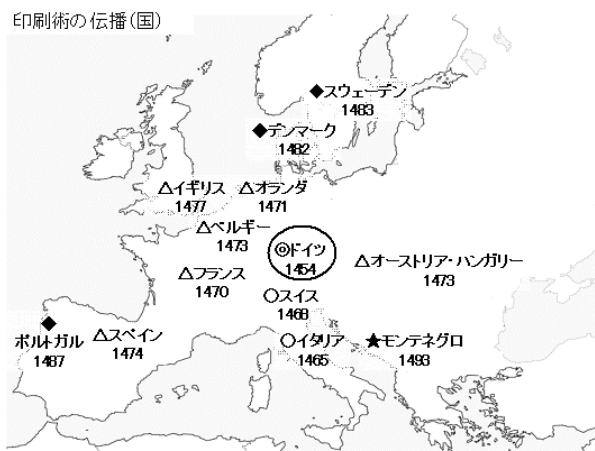


図1 印刷術の伝播(国)

| 表1 印刷術の伝播(国) |                     |
|--------------|---------------------|
| 1.           | ドイツ (1454)          |
| 2.           | イタリア (1465)         |
| 3.           | スイス (1468)          |
| 4.           | フランス (1470)         |
| 5.           | オランダ (1471)         |
| 6.           | ベルギー (1473)         |
| 7.           | オーストリア・ハンガリー (1473) |
| 8.           | スペイン (1474)         |
| 9.           | イギリス (1477)         |
| 10.          | デンマーク (1482)        |
| 11.          | スウェーデン (1483)       |
| 12.          | ポルトガル (1487)        |
| 13.          | モンテネグロ (1493)       |

トビル、1468年にはアウグスブルク、1470年にはニュルンベルクと順次広がっていき、1500年に51番目の都市であるプロッツハイムに伝播している様子を辿ることができる<sup>10)</sup>。

さらに、それぞれの都市の中を見ると、各都市の中の印刷所が印刷開始の早い順に配列されている。ドイツに次いで早い時期から印刷術が導入されたイタリアは、15世紀末には、印刷業の最も盛んな国となった。特にベネチアは、ローマン活字体を考案したニコラス・ジャンセン (Nicolas Jensen) や、イタリック活字体、ギリシャ活字体などを考案したアルドゥス・マヌティウス (Aldus Manutius) などが活躍した街として知られる。プロクターの索引には、ベネチアの151の印刷所が示されている。これは、プロクター索引中の一都市における印刷所の数としては最多数を示している。ここから、ベネチアはイタリアの中でも特に印刷が盛んな街であったことが窺える。索引からは、ベネチア最初の印刷所は、シュバイアー (Speier) 出身のヨハン (Johann) とヴェンデリン (Wendelin) が共同で開いた1469年の工房であったこと、ジャンセンは1470年に彼等に次いで2番目に印刷所を設けたこと、アルドゥスはかなり遅れて1494年から1495年頃にベネチアで131番目の印刷所を開いていたことなどが分かる<sup>11)</sup>。大英博物館とボドレイ図書館のインクナブラは、これらの印刷所毎に分類され、さらにその出版年順に配列されていたのである。

このように、プロクターは、インクナブラに用いられている活字体の変化を調べることによって、それらの出所と印刷術の歴史を明らかにしていった。彼の索引は、ロシアを除くヨーロッパ全域における印刷術の伝播過程を、歴史的、地理的に示すことに初めて成功したと言えるのである。今日、この分類方法はプロクター分類法 (Proctor Classification) またはプロクター配列法 (Proctor Order) として知られている。現在、その分類記号 (Proctor Number) は、著者名、書名、辞書体配列などで編纂されたインクナブラ索引や書誌にも参照として付記され、インクナブラを検索する際の重要な手がかりの一つとなっている。

### 3. ニューヨーク・グロリアクラブ図書館分類法

グロリアクラブは、19世紀の末、書物制作者のために書物芸術の研究と促進を目的としてニューヨークに設立された、書物芸術分野におけるアメリカで最初の組織である。1884年1月、ニューヨークの印刷業者であり本の収集家でもあったハウ (Robert Hoe, 1839-1909) は、8人の書物愛好家を自宅に招き、会の設立とその目的、名称、規約等について話し合った。9人は、年齢も職業も社会的地位も異なっていたが、全員が、芸術的書物の編集、デザイン、制作、販売、収集などに関与している者たちであり、19世紀後半のアメリカにおける書物芸術や活版印刷の分野において改革が必要であるという考えを共有していた。2週間後、会の名称は、ルネサンス期の著名な書物収集家であるフランスのジャン・グロリエ (Jean Grolier; 1489/90-1565) の名をとって、ニューヨーク・グロリアクラブ (The Grolier Club of the City of New-York) と命名された。

グロリアクラブは、書物研究や芸術的書物の制作を促進するために、研究会、講演会、展示会などを開催すると共に、当該分野の資料収集や出版活動も行っている。現在ではアメリカを中心に、イギリス、ヨーロッパ、アジアからの参加者を含め約700の会員数を有するアメリカ国内最古にして最大の書物研究団体である。クラブ内に設置された図書館の蔵書は10万冊に及ぶ。クラブ図書館は、書物に関する図書資料、出版や収書に関する図書資料、展示会目録、彩色写本からグーテンベルク42行聖書を含む初期印刷本や現代の私家版に至るまで多彩で貴重な資料を所蔵し、書物研究専門図書館として国内外に知られている。また、会員のみならず、書誌学者、教員、学生、デザイナー、印刷業者、出版業者など、様々な分野の専門家にも開放されている。

1925年、グロリアクラブは会員向けに図書館紹介の小冊子 *The Library*. (New York, The Grolier Club Library, 1925.) を出版した。その中で、クラブ図書館のコレクションについて、以下の通り説明している。

400冊からスタートした図書館の蔵書は、16,000冊以上にも増加した。これは、書物収集家や書物制作者にとって、基本的で有用な図書のコレクションである。コレクションでは、書物愛好家の関心を惹く書物芸術、初版本、価格、出版企画、書物の起源などに関する歴史的な側面の図書に力点が置かれているが、活字、紙、割付、挿絵、装丁などを現代風に仕上げようとする今日の書物制作者にも役立つよう、実践的な資料も同様に収集されている<sup>12)</sup>。

また、図書分類法については、特別なニーズに対応できるように考案され適用されたと記され、主要な分類項目の紹介と、それらの特徴や重点事項などの説明がなされている。それによると、Typography (印刷術) は、クラブ図書館が最も力を入れていた分野であった。この主題の下では、稀覯本や初期印刷本から現代の印刷本、印刷史、印刷術発明に関する議論、各国の芸術発展史、印刷・出版業者の伝記、特殊な印刷に関する図書資料などを収集対象として、充実したコレクション作りを目指していること、また技術的側面より歴史的側面に力点が置かれていること、などが強調されている。

グロリアクラブ図書館分類法 (以下、「GCLC」と略す) は、初代図書館長であるケント (Henry Watson Kent, 1866-1948) によって1901年に作成された<sup>13)</sup>。その後、オースティン (Gabriel Austin) 等によって、若干の項目追加や変更が加えられ、1910年にはより詳細な分類法となって出版された<sup>14)</sup>。2007年2月には、ホルツェンバーグ (Eric Holzenberg) とペンナ (J. Fernando Penna) によって増補改訂新版<sup>15)</sup> が刊行された。GCLCは、DDCに倣って作られており、アラビア数字を用いた十進式の分類体系である。ケントは、コロンビア大学で図書館学を学んでおり、デューイから直接指導も受けている。そのため、図書館のシステム構築にもデューイの影響が大きく反映されたとと思われる<sup>16)</sup>。

1901年に発表されたGCLCをもとに、分類の仕組みを見ていこう。分類体系は、2段階100区分が基本となっている。まず10通りの大きな分類に分けられる。表2は、1901年に発表されたGC



LCの大分類（第1次分類・10区分）である。1910年版においては、「40」に「Engraving」が追加されている。また、2007年版においては、「80 Literature」「90 Biography・・・」の分類項目は不使用となった。しかし、その他の部分はそのまま今日の分類体系に引き継がれており、骨格は1901年のものと大きく変わっていない。大分類のなかは、下位の主題や、国、地域、年代などによりさらに10通りに区分（第2次分類）され、計100個の分類項目ができる。これら2桁の分類番号に、必要に応じさらに細区分された少数点以下の分類番号が付与されていくという仕組みである。

例として、表3に「30 Typography」の下位分類を示す。「31」は、印刷史の通史であり、西暦による時代区分で細分される。特に、15世紀はグーテンベルクによる印刷術発明の時期であり、16世紀以降の時代よりやや詳しい細分がなされている。「32」には、国別による印刷史が収められる。DDCでは、国別に細区分する場合には「900地理・歴史」で列挙された分類番号を使用するのがルールである（表4参照）。「900地理・歴史」の項目では、「940」から「990」までが国別の歴史であり、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、その他の諸国という順で番号が与えられる。他の分野において地理上の細分が必要な場合には、これらの番号が適用される。

しかし、GCLCでは、このDDCの規定と異なる方法がとられている点に注目したい。例えば、表3に示されたGCLC1901版の「32」は、国別印刷史の分類項目であるが、国の配列順序は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、その他の諸国となっている。これは、DDCにおける地理上の配列順ではなく、DDCの言語による区分の配列に倣ったものである。

表3 GCLC「30」印刷術の分類項目

**表2 GCLC 第1次分類**

|                |                               |
|----------------|-------------------------------|
| MAIN DIVISIONS |                               |
| 00             | Bibliography. 書誌              |
| 10             | Bibliography. The Book. 書誌：図書 |
| 20             | Writing. Palaeography. 書写・古写本 |
| 30             | Typography. 印刷術               |
| 40             | Book Illustration. 挿絵         |
| 50             | Bookbinding. 装丁               |
| 60             | Ex-Libris. 蔵書票                |
| 70             | Fine Arts. 芸術                 |
| 80             | Literature. 文学                |
| 90             | Biography. 伝記                 |
|                | Portraits. 写真                 |
|                | Iconography. 図像               |
|                | Miscellaneous Works. その他      |

THE GROLIER CLUB

|     |                                                                                                              |                       |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 27. | PENMANSHIP.                                                                                                  |                       |
| .3  | Systems.                                                                                                     |                       |
| .4  | Sample books.                                                                                                |                       |
| .5  | SHORTHAND.                                                                                                   |                       |
| .6  | Cryptography.                                                                                                |                       |
| 28. | AUTOGRAPHS.                                                                                                  |                       |
| .1  | Bibliography.                                                                                                |                       |
| .2  | Periodicals.                                                                                                 |                       |
| .3  | Societies.                                                                                                   |                       |
| .4  | Collections, descriptions and catalogues.                                                                    |                       |
| .5  | EXAMPLES. Originals.                                                                                         |                       |
| .6  | " Facsimiles.                                                                                                |                       |
| 30. | TYPOGRAPHY :                                                                                                 |                       |
| .1  | Bibliography.                                                                                                | .5 Periodicals.       |
| .2  | Dictionaries.                                                                                                | .6 Societies, Guilds. |
|     |                                                                                                              | .8 Poems.             |
| 31. | HISTORY BY PERIODS.                                                                                          |                       |
|     | .0 Early.                                                                                                    |                       |
|     | .1 15th Century.                                                                                             |                       |
|     | .11 Invention.                                                                                               |                       |
|     | .12 Claims.                                                                                                  |                       |
|     | .13 Celebrations.                                                                                            |                       |
|     | .14 Catalogues.                                                                                              |                       |
|     | .2 16th Century.                                                                                             |                       |
|     | .3 17th Century.                                                                                             |                       |
|     | .4 18th Century.                                                                                             |                       |
|     | .5 19th Century.                                                                                             |                       |
| 32. | HISTORY BY COUNTRIES.                                                                                        |                       |
|     | .1 America.                                                                                                  |                       |
|     | .2 England.                                                                                                  |                       |
|     | .3 France.                                                                                                   |                       |
|     | .4 Germany.                                                                                                  |                       |
|     | .5 Italy.                                                                                                    |                       |
|     | .6 Spain.                                                                                                    |                       |
|     | .7-9 Other countries.                                                                                        |                       |
|     | <i>May be sub-divided by cities. Hist. of Printing in London, 32.21 : Manchester, 32.22 : Oxford, 32.23.</i> |                       |
|     | TO                                                                                                           |                       |

DDCにおける言語による細分を参照してみよう。DDCでは、百科事典、総合年鑑、総合雑誌、叢書などのように、特定の主題を持たない図書資料は、言語によって細分される。例えば、DDCの「030」は百科事典の分類項目であるが、その第3次区分（1000区分目、分類番号の数字でいえば1桁目、DDCは3桁の数字を基本とする）では、米語、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、という言語の順に細区分がなされる（表5参照）。GCLCにおける国別の細分方法（表3）と照らし合わせてみれば、それがDDCの言語区分を基本としているということが容易に想像できよう。1910版の「32」では、より多くの国名が列挙され、小数点2桁までを使ってさらに詳細な国別分類が可能となった。さらに、2007年版においては、独立した地理区分表が補助分類表として付け加えられ、主表の分類番号と組み合わせることで、他の分類の下でも必要に応じて国や地域による細分ができるようになった。

ケントは、グロリアクラブの専門性を反映した蔵書構成と将来の資料増加を配慮して、GCLCではヨーロッパ諸国を先順とするDDCの地理配列（表4）よりも、アメリカを優先させた言語順の配列（表5）を採り入れたのではないかと思われる。即ち、コロンビア大学図書館学科の第一期生としてデューイのもとで学んだケントは、デューイの十進分類法の展開可能性の利点を活かして

**表4 DDC「地理・歴史」の分類項目**

|     |                                       |
|-----|---------------------------------------|
| 900 | Geography, History                    |
| 910 | Geography & travel                    |
| 920 | Biography & genealogy                 |
| 930 | History of ancient world (to ca. 499) |
| 940 | History of Europe                     |
| 950 | History of Asia                       |
| 960 | History of Africa                     |
| 970 | History of North America              |
| 980 | History of South America              |
| 990 | History of other areas                |

**表5 DDC「百科事典」の分類項目**

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 030 | General encyclopedic works                                          |
| 031 | General encyclopedic works -- American                              |
| 032 | General encyclopedic works in English                               |
| 033 | General encyclopedic works in other Germanic languages              |
| 034 | General encyclopedic works in French, Provençal, Catalan            |
| 035 | General encyclopedic works in Italian, Romanian, Rhaeto-Romanic     |
| 036 | General encyclopedic works in Spanish & Portuguese (Latin American) |
| 037 | General encyclopedic works in Slavic languages                      |
| 038 | General encyclopedic works in Scandinavian languages                |
| 039 | General encyclopedic works in other languages                       |

つ、利用者のニーズと資料特性に配慮した分類システムを作り上げたといえよう。2007年増補改訂新版の編集にあたった図書館長ペennaは、「グロリアクラブ図書館の分類法はケントの初版以来、その骨格は現在にも引き継がれており、大きな変更点をほとんど要することはなかった」<sup>17)</sup>と述べている。

#### 4. ロンドン・セントブライド図書館分類法

S B L Cは、1915年、L A (Library Association) およびL A A (Library Assistants' Association) の合同会議がセントブライド財団を会場として開かれた際に、図書館長ペディーによって発表され、翌年*The St. Bride Typographical Library: its method and classification* (Aberdeen, The Univ. Press, 1916)と題して刊行された。

S B L Cの構造をG C L Cのものと比較検討してみたい。S B L Cの大分類はG C L Cと基本的に同じであるが、異なるところは、G C L Cにおいて文学、芸術、伝記等の主題に割り当てられていた「70」「80」「90」番代が空番になっている点である(表6参照)。これは、セントブライド図書館の専門主題である印刷や挿絵や装丁の実例、あるいは技術的実践的な資料のために、必要に応じて用いることができるようにとの配慮であった。また、G C L Cは2桁の数字と小数点以下の細分類の数字との組み合わせであったのに対して、S B L Cは3桁の数字と小数点以下の細分類の数字との組み合わせになっている。さらに、分類番号が列挙された主表のほかに、地理区分の補助分類表(表7参照)が用意されており、必要に応じて主表と組み合わせて細分することもできる。G C L Cと最も大きな違いは、この地理区分表の中身である。S B L Cの地理区分の配列は、D D CともG C L Cとも大きく異なり、ドイツ、イタリア、スイス、フランス、低地地方、オーストリア・ハンガリー、スペイン・ポルトガル、英国・アイルランド、その他の諸国となっている。

プロクター索引のなかの印刷術伝播過程を国別に示した表1と、S B L Cの地理区分を示した表7を照合すれば、印刷史の観点を分類にとり入れようとしたペディーの意図が明確となる。ペディー

表6 S B L C 第1次分類

MAIN DIVISIONS

- 0 Bibliography.
- 1 The Book.
- 2 Writing.
- 3 Typography.
- 4 Illustrarion and Engraving.
- 5 Bookbinding.
- 6 Ex libris, etc.,  
Marks of Ownership.

表7 S B L C 地理区分

Geographical Table

- 1 Germany.
- 2 Italy.
- 3 Switzerland.
- 4 France.
- 5 Low Countries.
- 6 Austria-Hungary.
- 7 Spain and Portugal.
- 8 Great Britain and Ireland.

はこの配列を次のように説明している。「多くの主題は、地理的な細分が必要であるが、ここではデューイの方法には拠らなかった。私の考案した地理区分表は、印刷が開始された日付順に編成し「分類の主表の下で、図書や論文の全主題に地理区分を付与するよう試みた。」<sup>18)</sup>

S B L Cでは、印刷を主題とする図書、雑誌、新聞、パンフレット、シート、活字体の印刷見本、印刷材料や印刷機等の写真、新聞記事の切り抜き等々の多種多様な資料が、まず主題別に分けられ、十進式の数字による分類記号が与えられる。次にその中を印刷開始の早い国順に分類されるという具合である。例えば、「20世紀以降のオーストラリアの活字制作者の活字見本」に対する分類記号は「352.46994」となる。分類記号の構成はきわめて明快である。主表には、活字見本を収める主題をあらわす分類記号と、活字見本の刊行年代による区分が小数点以下2桁まで施されているので、352.46「20世紀以降の活字制作者の活字見本」という分類記号がまず与えられる（表8参照）。そのあと、表7の地理区分表に従って、オーストラリアの地理記号が付与される。

例：「20世紀以降のオーストラリアの活字制作者の活字見本」→352.46994

- 3      Typography 印刷術
- 35     + Practical Typography 印刷術の実際
- 352    + Types and Typefounding 活字・活字制作
- 352.4   + Typefounders' Specimen Books 活字制作者の活字見本
- 352.46   + 20th Century 20世紀
- 352.46994   + オーストラリア

表8 S B L C 「350印刷術の実際」の分類展開

|                    |                                                                |
|--------------------|----------------------------------------------------------------|
| 350                | PRACTICAL TYPOGRAPHY.                                          |
| 350 <sup>1</sup>   | Bibliography.                                                  |
| 350 <sup>2</sup>   | Education.                                                     |
| 350 <sup>201</sup> | Apprenticeship.                                                |
| 350 <sup>3</sup>   | Dictionaries and Manuals.                                      |
| 350 <sup>4</sup>   | Directories.                                                   |
| 350 <sup>5</sup>   | Periodicals and Annuals.                                       |
| 350 <sup>6</sup>   | Societies. Guilds. Typographia.                                |
| 350 <sup>7</sup>   | Exhibitions.                                                   |
|                    | [Arrange chronologically.]                                     |
| 350 <sup>8</sup>   | Patents.                                                       |
| 350 <sup>9</sup>   | Books of trades.                                               |
| 351                | Materials. Type, Paper, Composition machines.                  |
| 351 <sup>1</sup>   | Oils, Varnishes, etc.                                          |
| 352                | Types and Typefounding.                                        |
| 352 <sup>1</sup>   | Sizes, Faces, etc.                                             |
| 352 <sup>11</sup>  | Point systems.                                                 |
| 352 <sup>12</sup>  | Proportions of founts.                                         |
| 352 <sup>13</sup>  | Logotypes.                                                     |
| 352 <sup>2</sup>   | Typefounding.                                                  |
| 352 <sup>21</sup>  | Machines.                                                      |
| 352 <sup>22</sup>  | Metals (including Lino. and Stereo. Metals).                   |
| 352 <sup>4</sup>   | Typefounders' Specimen books.                                  |
| 352 <sup>41</sup>  | 15th century.                                                  |
| <sup>42</sup>      | 16th    "                                                      |
| <sup>43</sup>      | 17th    "                                                      |
| <sup>44</sup>      | 18th    "                                                      |
| <sup>45</sup>      | 19th    "                                                      |
| <sup>46</sup>      | 20th    "                                                      |
|                    | [Each section sub-divided geographically as 351-9.]            |
| 352 <sup>5</sup>   | Wood type.                                                     |
|                    | [Sub-divided as 352 <sup>51</sup> .]                           |
| 352 <sup>6</sup>   | Printers' Type Specimen books.                                 |
|                    | [Sub-divided as 352 <sup>61</sup> .]                           |
| 352 <sup>7</sup>   | Dealers' Type Specimen books, including Auction sales of type. |
| 352 <sup>9</sup>   | History of Typefounders and Founding.                          |

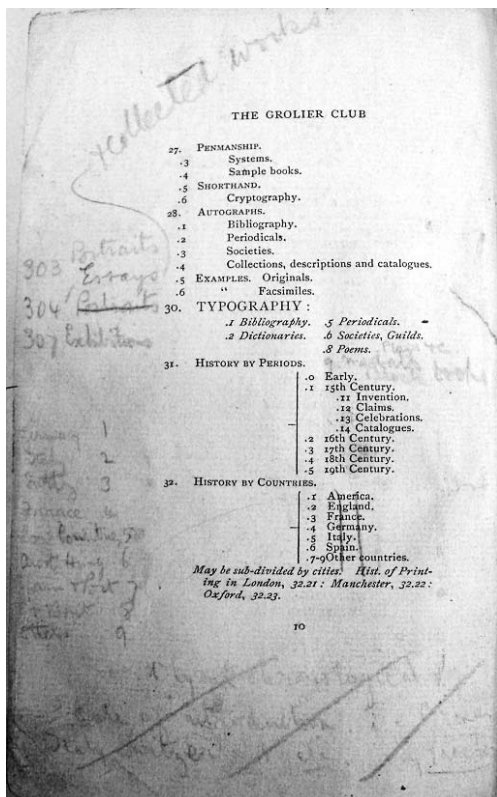
ここでは、十進分類法の合理性と、プロクター分類法の印刷史的観点とが適度に融合されたユニークな資料組織の体系が実現されている。DDCは、規模の異なる図書館や、公共図書館、学校図書館、大学図書館などの館種の異なる図書館にも使用できる標準的な分類システムである。アルファベットや他の記号などを用いず、アラビア数字のみで十進展開されるため、簡易で、資料増加や新主題にも対応しやすい。反面、特別な主題分野に重点を置いている専門図書館では十分対応しきれないという欠点がある。グロリアクラブ図書館のケントは、DDCの合理的な利点を活かしつつ、専門主題領域の分類項目を増強し、書物研究の専門図書館に対応できる分類法を編成した。しかし、DDCが全学問分野対応、GCLCは専門分野対応という対象分野の違いを除けば、両者とも、どの図書館にも適用しやすい中立的な分類体系である。

他方、ペディーは、DDCとGCLCの両者の構造を活かしながら、印刷史という主題を表現しうる要素を分類体系に加味した。これによって、セントブライド図書館の所有する印刷関連の全資料が、それぞれの主題のもとに、印刷術開始から現代に至るまでの歴史的発展過程を背景として編成されることとなったのである。SBLCは版が重ねられてはいるが、ペディーによって構築された印刷史の体系は現在にも引き継がれ、未整理図書館の書架や技術的実例や見本・実物の整理収納

に至るまで、セントブライド図書館内の随所において印刷術の歴史的発展の経緯が一見して理解できる仕組みとなっている。

このように、ペディーは、インクナブラ書誌の解題において印刷史の視点から編成されたプロクター索引を高く評価したばかりではなく、インクナブラ目録の編纂や、近現代の図書・非図書資料を印刷史的観点から体系化するなど、様々な分野でプロクター分類法の応用を試みていたことがわかる。ペディーは、プロクターの研究志向を引き継ぎ、最新の研究成果を実践の場においても活かし発展させようとしていたのである。セントブライド図書館には、ペディーのメモが書き加えられたGCLC1901年版が残されている。ページごとに書き込まれた青鉛筆の文字は、やや乱雑で読み取りにくいですが、GCLCを礎にしながらか自館のコレクションをいかに体系化するべきかと推敲を重ねたであろうペディーの思考過程を、現在に甦らせてくれる貴重な痕跡である（表9参照）。

表9 ペディーのメモ入りGCLC



## おわりに

19世紀後半、正確な書誌編纂の必要性から、活字研究や分析書誌学の誕生と発展が促された。研究の材料や対象となったのは、ヨーロッパ諸国の主要な図書館が所蔵していたインクナブラや初期印刷本であった。分析書誌学の研究成果は、それら書物の出所を明らかにし、またそれによって15世紀後半の印刷術の歴史的地理的伝播の過程を明らかにした。20世紀初頭には、これらの研究成果は、書物史研究にいつそう深みと広がりをもたらしたばかりでなく、図書館の資料組織化においても影響を及ぼした。

本稿では、印刷史を専門分野とするセントブライド図書館の資料組織のシステムに、分析書誌学の研究成果がどのように採り入れられていったのかを探った。その結果、同図書館の分類法考案者ペディーは、デューイの十進式分類の手法と、グロリアクラブの書物研究専門の主題項目を基本としたこと、またそこにプロクター分類を組み合わせることで資料の印刷史的配列を可能にしたことがわかった。さらに、同図書館における多種多様な資料の組織化にそれが今なお有効に活かされていることが確認された。

図書館現場から生まれ発展をとげた分析書誌学は、文学、歴史の研究分野ばかりでなく、書物制作や書物芸術の分野などに幅広く浸透していった。セントブライド図書館の例は、その研究成果が図書館の現場へ再び還元され活かされたケースである。技術的実践の分野では、工学的な研究成果が応用される例は多いが、図書館システムに歴史学的な研究成果が応用されるということは稀である。今日、研究対象がますます細分化かつ先鋭化されていき、研究と実践現場との乖離が起こっているという反省がでてくる。研究成果の社会における普及還元が重要な課題となっている今、分析書誌学の発展と現場への応用のプロセスは理論と実践をつなぐ学問発展形態の一つの有り様を我々に示唆しているといえよう。

(本研究は、平成18年度～20年度日本学術振興会科研費(18500188)による研究「分析書誌学の萌芽と発展に関する実証的研究－研究者間学術コミュニケーションを通して－」の一部です。グロリアクラブ図書館長フェルナンド・ペンナ氏、セントブライド図書館長ナイジェル・ロッシュ(Nigel Roche)氏、ニューベリー図書館ウィングコレクション部長ポール・ゲール(Paul Gehl)氏、またそれら関係機関のスタッフの方々には大変お世話になりました。ここに記して感謝の意を表します。)

注・引用

- 1) 「インクナブラの活字研究と書誌学者間の学術コミュニケーション－プレイズ, ブラッドショー, プロクターを中心に」『聖学院大学論叢』第20巻第2号, p.185-196
- 2) Proctor, Robert. *An Index to the early printed books in the British Museum: from the invention of printing to the year 1500 with notes of those in the Bodleian Library*. London, Kegan Paul, 1898-99, Vol.1-cont.
- 3) 詳しくは以下を参照。 *Dictionary catalogue of the history of printing from the John M. Wing Foundation in the Newberry Library*. Boston, G. K. Hall, 1961, introduction. 若松昭子「ピアス・バトラーによる印刷史コレクションの形成－インクナブラの収集を中心に」『図書館学会年報』Vol.44, No.1, 1998, p.1-16. 若松昭子「インクナブラ・コレクションに見るバトラーの書物観」『日本図書館情報学会誌』vol.46, No.4, 2001, p.143-158
- 4) Febre, Lucien; Martin, Henri-Jean. 『書物の出現』 [*L'apparition de livre.*] 上巻 関根素子ほか訳, 東京, 筑摩書房, 1985, 466p. 引用は p.451
- 5) 詳しくは, 若松昭子「イギリスにおける分析書誌学の草創と発展－セントブライド印刷図書館を中心として－」『図書館情報学の再構築』勉誠出版, 2001, p.168-179
- 6) Peddie, Robert Alexander. *Fifteenth-century books: a guide to their identification*. New York, Burt Franklin, 1913, p.14
- 7) Peddie, R. A. *List of early printed books*. London, St. Bride Foundation Institute, 1904, p.[1]
- 8) Peddie, R. A. *The St. Bride Typographical Library: its method and classification*. Aberdeen, The University Press, 1916, p.3
- 9) 国名・都市名・領域等は索引が刊行された19世紀末時点のものである。
- 10) Proctor, Robert. *An Index to the early printed books in the British Museum: from the invention of printing to the year 1500 with notes of those in the Bodleian Library*. London, Kegan Paul, 1898-99, Vol.1, p.29
- 11) *ibid*, p.221-267
- 12) *The Library*. New York, The Grolier Club Library, 1925. 2,8p.
- 13) A Tentative Scheme of Classification for the Library of The Grolier Club. New York, The Grolier Club Library, 1901, 20p.
- 14) “Classification Used in the Library of The Grolier Club.” *The Grolier Club of the City of New York Officers Committees Constitution By-Laws House Rules Members Annual Reports*, 1910, p.123-145
- 15) *The Classification Used in The Grolier Club: Being the Classification Scheme Devised 1901-1910 by Henry Watson Kent, Expanded and Altered by Gabriel Austin et al*. New ed. and with additions, by Eric Holzenberg and J. Fernando Penna. New York, The Grolier Club, 2007, 38p.
- 16) *What I Am Pleased to Call My Education*. Henry Watson Kent. Ed. by Lois Leighton Comings. New York, The Grolier Club, 1949. 208p.
- 17) 2008年9月4日グロリアクラブにて行った筆者のインタビューに対する返答。
- 18) *The St. Bride Typographical Library: its method and classification* Aberdeen, The Univ. Press, 1916, p.4